

令和３年度第１回菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議録

日時 令和３年８月３日（火）１４時００分～１６時００分

場所 菊池市役所 ２階 ２０４会議室

（出席委員）

会 長 澤田 道夫

委 員 中村 智子

〃 佐藤 由紀

〃 増住 香織

〃 佐藤 満

〃 角田 友和

〃 中原 恵

（代理出席）

商工会事務局長 泉 大助

１．開 会

２．会長あいさつ

３．議 題

（１）令和２年度（２０２０年度）癒しの里きくち創生総合戦略の検証について

①『癒しの里きくち創生総合戦略』の効果検証について

資料にて事務局より説明

質疑

（委 員）	菊池に人を呼び込むためには、菊池独自の観光コンテンツ（例えば、イデベンチャー）を作るなど、菊池の独自性を出して、他の地域の差別化を図る必要があると考える。アフターコロナを見据えて、どういった観光の取組みを今後考えているか教えてもらいたい。
（事務局）	令和２年度は新型コロナウイルスの影響で観光誘客に関するPR事業等は実施できなかった。現在検討している、誘客や地域経済活性化の取組として、一つはヘルスツーリズム事業の強化である。菊池観光協会を通じて、民間のヘルスツーリズム認証委員会へ認証申請を行い、令和３年度中の認証を目指している。認証を受けた後、観光しながら健康づくりにつなげるための、ヘルスツーリズムのモデルコースを設置し、ターゲット層に応じた商品開発を官民一体で進めたい。 また、コロナ禍において、アウトドアの需要が高まっており、本市でも事業の推進を行っている。今年の４月より、「四季の里旭志」の管理運営を、アウトドア店を展開している、(株)シェルパが行ったり、

	竜門ダムでキャンプ場が運営されたり、市内にアウトドア店が新たにオープンしたりしている。こうした拠点を中心に、キャンプなどのアウトドアによる観光にも取り組んでいく。竜門ダムのキャンプ場に関しては、都市・地域再生等利用区域の申請を令和３年度中に行い、キャンプ場としての本格稼働に向けた取組みを進めていく。
(委 員)	グルメ店の認定が進んでいないのはなぜか。進んでいない要因や今後の見通しを教えてもらいたい。
(事務局)	グルメ店を含む飲食店の新規開業に対する支援については、菊池市創業支援事業要綱に基づき、借地料や借家料、店舗改装費などへの補助を行っている。令和２年度の補助実績としては、飲食店への補助が２件となっている。しかし、補助を行った数年後に廃業する店舗もいくつかある。加えて、昨今の新型コロナウイルスが飲食店へ大きな影響を及ぼしている。そのため、本市では、飲食店への支援を目的とした、飲食応援チケットの販売を令和２年度と令和３年度に行っている。飲食店の新規開業の支援はさることながら、既存の店舗から支援を求める声が多くあるため、令和２年度は既存の飲食店への支援を主に行ったところである。 グルメ店の認定については、現在、認定要綱などの検討を進めている。認定基準については、地産地消や景観との調和、先駆性などを評価項目として、審査会に諮り、基準を満たす飲食店を菊池グルメ店として認定する流れを考えている。認定されたグルメ店は、市のホームページやパンフレットなどへ掲載することで誘客効果を高めたいと考えている。また、グルメ店については、補助に関する優遇措置も検討している。今年度中に認定基準や要綱の制定を行い、早期の制度運用を目指したい。
(委 員)	飲食応援チケットは飲食店によってはありがたい取組みだと思う。一方、熊本県でも認証店申請に係る審査や手続きがあり、保健所においても審査などがあり、飲食店から見れば、同じような手続きを何度もしなければならないことがある。手続きが煩雑にならないように配慮してもらいながらも、早期に認定基準などを制定し、制度運用をしてもらいたい。
(会 長)	認定されたグルメ店は、市のホームページなどへの掲載をするとのことだが、グルメ店の情報を掲載する媒体（観光協会のホームページやSNS）や周知方法などもしっかり検討してもらいたい。
(委 員)	人口が減っていく中で、菊池市への移住を促進することは重要であるが、一方で、市外からの移住者の中には、職業がよく分からない方や地域に上手く溶け込めないような方もいるように思う。単に、菊池市への移住者を増やすだけでなく、地域にしっかり溶け込めるように支援する必要があるように思う。

(事務局)	これまで市では、都市部での移住相談会などに取り組んできた。併せて、市のお試し住宅で一定期間生活をして、菊池市での暮らしを体験してもらう取組みも行っている。最近は、新聞等でも報道されたが、民間の取組みとして、(株)白金の森が移住・定住の促進を目的としたシェアハウスをオープンしており、地域へ定住するまでの支援等を行うとのこと。本市も当企業と包括連携協定を締結しているため、連携しながら、定住につなげたい。また、この取組みで得られた知見等も踏まえ、市独自の支援策も検討する必要がある。
(委 員)	飲食チケットがとても好評で、第 1 弾は販売開始から数日で完売となったが、第 2 弾の販売枚数も第 1 弾と同じくらいなのか。
(事務局)	令和 2 年度も同様に飲食チケットの販売を行ったが、販売枚数は 3 万冊であった。令和 3 年度は 2 回に分けており、第 1 弾と第 2 弾でそれぞれ 2 万 5 千冊ずつ販売する。販売する場所については、市内の第 3 セクターのほかに、郵便局でも販売を行う。なお、買い占めを防止するため、令和 2 年度は 1 人 1 日につき 3 冊までの販売として、令和 3 年度は 1 人 1 日につき 2 冊までの販売としている。
(委 員)	飲食応援チケットは市外在住の方でも購入できるのか。
(事務局)	飲食応援チケットの目的は利用者が減ってしまった飲食店への支援や地域経済の活性化であるため、市外在住の方も購入可能としている。
(委 員)	菊池米のブランド化について、以前は七城米が 11 年連続で食味ランキングの最高評価の特 A を受賞していたが、直近の 2 年は特 A を受賞できていない。ブランド化を進めることで、付加価値が高まり、農家の収益増加などにもつながると思うので、特 A を再び受賞できるように取り組んでもらいたい。
(事務局)	令和 2 年度から特 A の奪還に向けたプロジェクトに取り組んでいる。七城米をはじめ菊池米が生き残るために、菊池米コンクールや九州の米食味コンクールへ出品を行い、商社等との取引につなげている。また、都市部の百貨店と米以外の農産物の取引にもつながっている。
(委 員)	例えば、米のレトルト食品を作ること、手軽に食べることができ、より多くの人に菊池米のことを知ってもらえるのではないかなと思う。
(事務局)	雑穀米のレトルト食品はすでに作っている。いただいた意見を踏まえて、菊池米を多くの人に知ってもらえるように取り組んでいきたい。
(委 員)	事業承継について、行政をはじめ、関係機関がもっと連携をして取り組んでいく必要があると思う。
(事務局)	事業承継に関して、令和 3 年度は「起業塾」を開校し、本市での起業・開業を図りたい。また、「ビジネスサロン」を開催し、経営等に係る意見や情報の交換ができる交流の機会とする。
(会 長)	新たに起業するよりも事業承継のほうが難しい課題である。ある地域では、事業承継と組み合わせた移住の推進に取り組んでいる。利益

	が上がりずに経営を断念する場合もあるが、一方で、一定の利益を上げながら、やめざるを得ない場合もある。この問題は単独では解決が難しいと思うので、行政をはじめ、商工会や金融機関などで連携をして取り組んでもらいたい。
(委 員)	女性が働きやすい環境づくりを進めるために、企業に対して、そうした職場環境づくりを促すような取組が必要だと思う。
(事務局)	令和2年度は市民講座を数回開催し、男女共同参画に関する意識啓発等に取り組んだ。引き続き、講座等を通じて、市民への啓発を図りながら、女性が活躍できる社会づくりを進めたい。
(事務局)	市内の製造業などの複数企業で構成している、企業連絡協議会において、セミナー等を開催し、男女雇用機会均等法に関する取組みの紹介や男女共同参画・人権に関する啓発を行い、女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
(会 長)	菊池市は、SDGs 未来都市に選定をされており、SDGs 推進のトップランナーとして、女性が働きやすい環境づくりといった取組に関しても、より積極的に取り組んでもらいたい。
(委 員)	1人1台タブレット端末の活用について、家庭によっては通信環境が整っていない家庭があるような話も聞くが、現在の活用状況はどうなっているのか。
(事務局)	令和2年度に児童生徒への1人1台端末の整備を行い、家庭に端末を持ち帰って、家庭と学校を繋ぐ遠隔授業などが行われている。なお、端末の持ち帰りは小学5年生以上を対象としており、学校との申合せとして、下校中には使用しないといった取決めをしている。タブレット端末の更なる活用については、引き続き進めたい。
(委 員)	不妊治療に係る支援はどうなっているか。
(事務局)	不妊治療に係る経費への補助については、体外受精等の特定不妊治療の助成を県で行っているが、県の助成額を超えた分は市で助成している。県の助成金の申請をしていただいた上で、市にも助成金申請をしてもらう流れになる。また、人工授精等の保険適用外の一般不妊治療についても、市の助成を実施するなど、不妊に悩む方の経済的・精神的な負担軽減等の支援を行っている。
(委 員)	べんりカーやあいのりタクシーの利用者数の減少について、新型コロナウイルスだけが減少の要因ではないように思う。ここ数年のべんりカー及びあいのりタクシーの利用状況を教えてもらいたい。また、今後、利用者数を増やしていくための取組みをどのように考えているか。
(事務局)	まず、あいのりタクシーの直近5年間の利用状況は、平成28年度が11,212人、平成29年度が11,872人、平成30年度が11,716人、令和元年度が11,750人、令和2年度が10,193人となっている。ま

	た、べんりカーの直近5年間の利用状況は、平成28年度が18,910人、平成29年度が19,071人、平成30年度が18,522人、令和元年度が18,078人、令和2年度が15,507人となっている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響が大きいと思うが、利用が進まない他の要因としては、人口減少や高齢化なども考えられる。高齢者の中には運転免許証を返納する方々もいるが、そういった方々の認知度を高める必要があると考えており、令和3年度より運転免許証を返納された方で希望者を対象にべんりカーとあいのりタクシーの割引チケット（1,000円相当）を交付する取組みを行っている。そうした取組みなどを通じて、引き続き利用促進を図っていきたい。
(委 員)	特定健診の受診率をさらに高めていくための取組みをどのように考えているか。
(事務局)	健診については、まず自分の体を知り、生活習慣を見直す入口であると考え、受診率の向上を図っているが、伸び悩んでいる状況である。未受診者対策として、前年度に受診した方で今年度未受診の方や過去5年間に受診歴がある方に受診勧奨を行っており、こうした取組みにより、令和2年度は332人の受診につながった。今後も未受診者の分析を行い、過去に受診歴がある方への受診勧奨や年代等に応じた通知の工夫なども検討していきたい。また、市では、健康ポイント事業を行っており、健診の受診に対して健康ポイントを加算し、受診率の向上を図っている。さらに、令和2年度よりQRコードを活用し、電話や窓口での申請に加えて、インターネット申請もできるようにし、24時間の受付を可能としている。そして、健診についても、2月末まで随時受診できるようにしている。未受診の理由として、既に医療機関に通院しているという理由が多いということで、本人の同意のもと、医療機関から検査データを受領することで健診受診者とみなす「みなし健診」ができるようになっており、令和2年度は4つの医療機関の協力のもと、実施をしている。こうした取組みを通じて、引き続き受診率の向上を図っていく。
(委 員)	未受診の年齢層はどうなっているのか。
(事務局)	傾向としては、高齢の方の受診割合が高く、若い年代の方の受診割合が低い傾向にある。QRコードを活用したインターネット申請などを通じて、若い世代の受診率の向上を図っている。
(会 長)	若い世代の方は職場で受診しているという状況もあると思う。
(事務局)	特定健診は医療保険者で実施することになっており、市では国民健康保険のみ対応している。
(委 員)	菊池市はSDGs未来都市に選定されているが、こういった取組みを予定しているのか。
(事務局)	本市は2021年5月にSDGs未来都市に選定され、現在、国と協議

	の上、SDGs 未来都市計画を策定中である。主な取組みとしては、テレワークに健康プログラムなどを取り込んだ取組みなどを予定している。また、SDGs の周知啓発については、市民向けのワークショップなどを実施予定である。
(会 長)	熊本県は SDGs 未来都市に選定されている自治体も多く、SDGs の取組みは重要である。2030 年までを目標としているが、案外時間はないと思う。SDGs 未来都市に選定されたからには、目標達成に向けてしっかり取組みながら、市民への周知啓発にも力を入れてもらいたい。
(委 員)	観光については、新型コロナウイルスの影響が大きいが、そうした中でも SNS やオンラインを活用した取組みをされている印象である。菊池渓谷は菊池市を代表する観光地であり、コロナ禍で自然に触れることができる貴重な場所であると思う。一方で、車以外での交通アクセスが課題であるが、現状を教えてもらいたい。
(事務局)	令和 2 年度は入谷制限の影響もあり、約 10 万人の入谷者数であったが、屋外ということもあり、コロナ禍でもニーズが高いと思う。熊本市内からは路線バスがあるが、市街地から菊池渓谷までの交通手段が課題である。なお、菊池渓谷内では（夏休みや紅葉のシーズンに）最寄りの駐車場から菊池渓谷まではシャトルバスを運行している。
(事務局)	他の交通手段として、土日祝日のみの運行になるが、市街地から菊池渓谷までの観光あいのりタクシー（予約制）を運行している。
(委 員)	予約方法などの情報は何を見ればわかるのか。また、日帰り客でも利用できるのか。
(事務局)	市ホームページや観光協会のホームページなどに掲載しており、市内の旅館でも案内している。また、利用する 1 時間前までに予約すれば利用可能であるため、日帰り客の利用も可能である。

② 地方創生推進交付金事業・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

【地方創生推進交付金事業】	
(委 員)	菊池アグリサイエンスパーク構想について、試作・実証研究数 5 件の取組みの詳細を教えてください。
(事務局)	1 つ目の「IoT カメラによる野生動物侵入監視と遠隔監視」は、豚小屋の遠隔監視と豚熱の原因である野生動物の侵入監視の実証である。2 つ目の「新規就農者の負担を軽減するスマートな計量機の共同開発」は、野菜などを袋詰めする際の計量作業を効率化するための計量器の開発を行うものである。3 つ目の「地作り・減農薬栽培に拘りを持つ生産者圃場での、イエバエ分解物（肥料）の利用及び効果の分析」は、豚の糞を食べたハエの分解物を肥料として野菜を栽培するもので、味が良くなるなど一定の効果は出ているが、実用化までには至っていない。4 つ目の「菊池水田ごぼう畑における雑草除草ロボットの開発」は、水田ごぼう畑における雑草除草を行う自走式ロボットの開発を崇城大学と連携して行ったものである。引き続き、実用化に向けて取り組み、作業負担の軽減につなげたい。5 つめの「機能性乳酸菌を用いた後発酵茶の製造と付加価値創出」は、乳酸菌を使った茶葉の製造を行うものである。
(会 長)	菊池グローバルビレッジ構想はその後どうなったのか。
(事務局)	各事業をそれぞれの担当部署で引き継ぐことになっている。まず、IT 関係の起業・就業や副業人材の活用は経済部、サテライトオフィス等による二拠点居住や地域人材とのマッチングによる働き方改革などは政策企画部、そして、プログラミング教育は教育部で取り組むことになっている。
(会 長)	菊池グローバルビレッジ構想の KPI「IT 関係の移住者数」が伸び悩んだ要因は何か。
(事務局)	令和 2 年度については、新型コロナウイルスの影響により、モニターツアーなどの実施ができなかったため、オンラインイベントを開催したが、KPI 達成には至っていない。
(会 長)	菊池アグリサイエンスパーク構想の KPI「農業系ベンチャー等の試作・実証研究拠点開設件数」が伸び悩んだ要因は何か。
(事務局)	令和 2 年度については、新型コロナウイルスの影響もあり、拠点開設は進まなかった。一方、水田ごぼう畑の除草ロボットなどの事業は一定の効果が出ており、今後も事業を継続していく。一部の KPI は達成できていないが、菊池市ならではのアグリ技術の創出やスマート農業の推進につながっている。
(委 員)	関係人口創出・拡大プロジェクトの KPI「開発したツアーや体験プログラム等の年間参加者数」の R2 実績値にオンラインイベント等への参加者数が計上されているが、本来は菊池市に来訪し、参加した人

	数を目標値として設定していると思われるので、注釈をつけるなどの表記方法を検討する必要があると思う。
(事務局)	いただいた意見を踏まえて、内部で検討する。
(委員)	関係人口創出・拡大プロジェクトの KPI「ふるさと納税」について、事業の効果を測定する上では、寄附額だけでなく、寄附件数や居住地、年齢層なども把握できれば良いと思う。
(事務局)	個人情報保護の観点から寄附者の情報がどこまで取得できるかは不明だが、いただいた意見などを踏まえて、検討していきたい。
(会長)	【まとめ】 ・熊本県北インバウンド事業については、新型コロナウイルスの影響を受けるのはある程度やむを得ないと思う。 ・菊池グローバルビレッジ構想については、令和 2 年度で計画期間が終了となっており、一部達成していない KPI はあるものの、新たな事業につながっている。今後は、各担当部署での事業の継続実施や更なる充実に期待したい。 ・菊池アグリサイエンスパーク構想についても、令和 2 年度で計画期間が終了となっており、一部達成していない KPI はあるものの、菊池市ならではのアグリ技術の創出やスマート農業の推進につながっている。今後は、事業の継続実施や更なる充実に期待したい。 ・関係人口創出・拡大プロジェクトについては、コロナ禍の中でオンラインイベント等の実施により、菊池ファンクラブの登録者数が順調に増加している。
【地方創生拠点整備交付金事業】	
(会長)	学校跡地活用事業の KPI「移住者数」は、他の取組みによる移住者数も含んだ数値なのか。
(事務局)	そのとおりである。この数値は、市の空き家バンク制度を活用した市外からの移住者数である。
(会長)	アーティストスタジオは満室になっているとのことだが、入居しているアーティストは菊池市に移住しているのか。
(事務局)	入居しているアーティストは市外から通っている方がほとんどである。
(会長)	通ってでもアーティストスタジオを利用するメリットがあるということなのか。
(事務局)	アーティストの方々からは、製作した作品を収納するスペースを確保できる点や静かで落ち着いた環境で作品制作に取り組めるといった点などがメリットであると聞いている。
(会長)	お試し住宅整備事業の成果などについて、市の所感はどうか。
(事務局)	KPI「空き家バンクの利用登録者数」は目標値を上回っているが、平成 29 年度をピークに減少傾向にある。要因としては、登録物件数の減

	少が一因と考えられる。
(委 員)	空き家バンクの物件登録をする方はどういった方が多いのか。
(事務局)	様々なケースがあるので、一概には言えないが、居住者がいなくなり、利用されなくなった物件が登録されるケースが多い。
(委 員)	空き家の件数に対して空き家バンクへの物件登録はまだまだ少ないと思うが、例えば、地域の区長に協力してもらい、空き家の登録を促すような取組みもあるように思う。
(事務局)	登録を促す取組みとして、固定資産税の通知文書に空き家バンクの登録案内を同封している。また、令和 2 年度から県の宅建協会に協力をお願いし、物件の掘り起こしにも取り組んでいる。いただいた意見も参考にしながら、登録物件数の増加に努めたい。
(委 員)	令和 2 年度はオンラインでの移住相談会等を行い、コロナ禍でも数組の移住者につながったということだが、菊池市のどういった所に魅力を感じ、移住されているのか。
(事務局)	移住する理由は様々だと思うが、転入者・転出者へのアンケート調査を行っており、折を見てアンケート結果なども紹介したい。
(委 員)	孔子公園の整備が行われたことで、マルシェなどの市民団体主催のイベント開催がしやすくなり、賑わい創出につながっているように思う。また、公園内のトイレも改修され、子ども連れのお客さんの来訪も増えていると思う。今後も市民と行政が協力・連携し、賑わい創出につなげてもらいたい。
(会 長)	泗水地区賑わい創出プロジェクトについては、KPI は目標値を達成できていないが、数値には表れない形での効果が出ているように思う。
(会 長)	菊池ブランド推進プロジェクトについて、新型コロナウイルスの影響もあるかと思うが、KPI がいずれも目標値を下回っている状況である。今後の取組みに期待したい。
(委 員)	本事業とは直接関係はないかもしれないが、先日、水田ごぼうを使った商品が販売され、評判が良いと聞いている。この商品は行政も協力して販売した商品なのか。
(事務局)	当該商品は市内の学校跡地に進出した企業と連携して、開発した商品である。博多駅の店舗や菊池市内の物産館、JA などで販売している。
(会 長)	【まとめ】 ・学校跡地活用事業については、令和 2 年度で計画期間が終了となっており、アーティストスタジオは満室になり一定の効果が見られる一方、サテライトオフィスへの入居が決まっていないため、引き続き誘致に取り組んでももらいたい。 ・お試し住宅整備事業についても、令和 2 年度で計画期間が終了となっており、KPI「空き家バンクの利用登録者数」は目標値を上回っているが、減少傾向にあるため、登録物件数の増加をはじめとする空き家

	バンク制度の充実に取り組んでもらいたい。 ・泗水地区賑わい創出プロジェクトについても、令和 2 年度で計画期間が終了となっており、KPI は目標値を達成できていないが、数値には表れない形での効果が出ているように思う。今後も整備した施設等を活用し、地域の賑わい創出につなげてもらいたい。 ・菊池ブランド推進プロジェクトについては、新型コロナウイルスの影響もあると思うが、KPI がいずれも目標値を下回っている状況である。今後の取組みに期待したい。 ・養生市場賑わい創出事業については、工事完了が令和 2 年度末となっているため、今後の波及効果に期待したい。
--	--

(2) その他

(事務局)	・本日いただいた意見については、事務局で取りまとめ、会長に確認いただいた後、市ホームページへの公表等を行う予定である。 ・また、今年度中に第 3 次総合計画を策定予定であり、総合計画の内容を踏まえて、総合戦略の見直しを行う予定である。
-------	--

4. 閉 会